



たもつ 保
もろ た 師田

町道赤湯線の拡幅整備と安全対策の実施を

答 地権者、中越森林管理署と検討協議し拡幅整備と安全対策に取り組むたい。

問 町道赤湯線は、春の水芭蕉、夏の山歩き、秋の紅葉、年間を通して楽しめるボードウォーク等、多くの自然に親しむ苗場地区の観光資源へのアクセス道路としての利用が急増しています。道路幅員が狭く、路肩からの滑落事故も数件発生して、車輛の通行に支障をきたす危険ヶ所も多く、紅葉時期にはドラゴンドラを利用する大型バ

スの通行も年々増加していることから、早急に町道赤湯線の拡幅整備と安全対策工事を実施願いたい。

答 赤湯線は併用林道であるが、観光関係の利用者が急増していることから早急に隣接する地権者、管理者である中越森林管理署と道路の拡幅、危険防止のための安全対策を検討、協議したい。

集落等の環境整備に対する支援を

答 町の補助制度等を通じて継続的な支援を行いたい。

問 浅貝地区では、夏の湯沢の最大イベントになったフジロックフェ

スティバルの沿道に1000本の桜並木整備に取り組んでいるが、地域の力だけでは限界があり全体の整備に数年の年数がかかる。何とか早急な整備に向けて町の協力、支援をお願いしたい。このことによつて、他の地域にも自らの手で地域環境整備の気運が起これば、新たな町づくりの方向へのきっかけづくりとして重要な意義が生まれることとなる。

答 フジロックの森プロジェクトとの連携事業であり、浅貝地区の活動はこれからの町づくりの見本として地域の皆様による環境整備の気運は歓迎している。

一時に多額の経費支援は難しいが、素晴らしい計画であるので町の補助事業等を通じて継続的な支援を行いたい。

湯沢学園開校に伴う各小学校で作成する閉校記念誌の全戸配布を

答 地域の人達の心情を聞かせていただいたので、期待に添えられるように検討させていただき、皆様に喜んでいただけるよう対応したい。

問 平成26年4月に町内の5小学校が統合、湯沢中学校と一体となった湯沢学園が開校することとなり、地域に愛され、地域教育のシンボルとして多くの卒業生を送り出してきた各小学校が139年という長い歴史に幕を閉じることとなる。

地域の関係者により来年秋に閉校式が計画され、準備が進められているが、湯沢小学校をはじめ校名すら消えてしまう三国小、三俣小、神立小、土樽小の地域の人達にとっては寂しさと感慨深いものがある。小学校の育ん

できた歴史と思い出を後世に伝えるために「各小学校の閉校記念誌」の作成、校区内全戸配布の予算を計上していただきたい。

答 閉校記念誌の全戸配布には1000万円程度の多額の経費が掛かることから在校生、関係者には無償、その他の皆様には有償による配布を検討しているが、地域の人達の小学校閉校に対する寂しい気持ちと心情を充分聞かせていただいたので、期待に答えられるよう検討させていただき、皆様に喜んでいただけるように対応したい。

